

上旬:21時頃 中旬:20時頃 下旬:19時頃

天文現象・ニュース

12/6 はやぶさ2 地球帰還予定日

12/8 下弦

12/13 月と金星が並ぶ(明け方、東の空)

12/14 ふたご座流星群が極大(出現のピーク)

12/15 南米方面で皆既日食(日本からは見られない)新月

12/15~31

木星と土星が大変近くに並ぶ(夕方、西の低い空。12/21の夕方、最も近づいて見える)

12/17 月、木星、土星が並ぶ(夕方、西の空)

12/21 冬至

12/22 上弦

12/24 月と火星が並ぶ

12/30 満月



- ★ 惑星
- ★ 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星以下

★星座盤の使い方

星座盤は空にかざして方位を合わせてみて!
空と重ねると…東西の向きが正しくなるよ。

ワンポイント星座

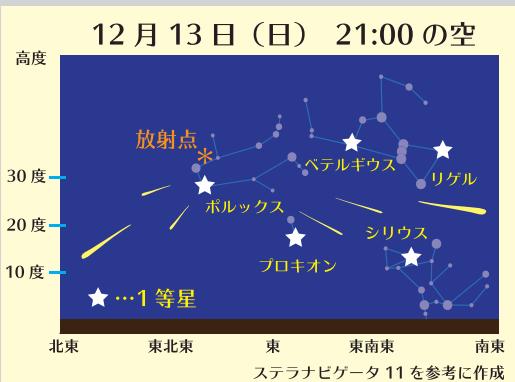


おひつじ座

おひつじ座は、およそ2000年前に春分の太陽が位置し、古くから黄道十二星座の最初の星座として重要視されました。3等星のシェラタンには「合図」または「しるし」という意味があります。当時、この星のあたりに太陽が来る時が春分(当時の年始)のしるしとなつたことから、この名が付いたとされています。

スペシャル版
今月のポイント今年は12月13日の夜が好条件!
ふたご座流星群を見よう

今年のふたご座流星群は、12月14日の午前10時頃が出現のピーク(極大)と予想されています。ただし、昼間では流星は見えませんので、観察におすすめなのは13日の夜から14日の明け方にかけての時間帯です。15日が新月のため、ちょうど月明かりの影響もない時期で、晴れれば好条件で流星の観察ができます。



流星は放射点(図の*)を中心に、あちらこちらに流れるので、必ずふたご座を見つけなければ、というわけではありません。放射点が高く昇るほど流星は見やすくなり、放射点の近くでは流星は短く、離れるほど長く見えます。流星を見るコツは、①明かりの少ない

②視界の開けた場所で③空全体を広く眺めることです。暗さに目を慣らし、じっくりと眺めるほど、見ることができる可能性が高まります。流星群は毎年同じ時期に出現しますが、今年のようにいつも条件がいいとは限りません。流星群を見たことがない方も、この機会に流星観察に挑戦してみてはいかがでしょうか?天気予報のチェックを忘れずに、寒さ対策も万全にして、空をご覧ください。

